

「IoT」にS(セキュア)を加えて 安全・安心に情報をやり取りできる社会に



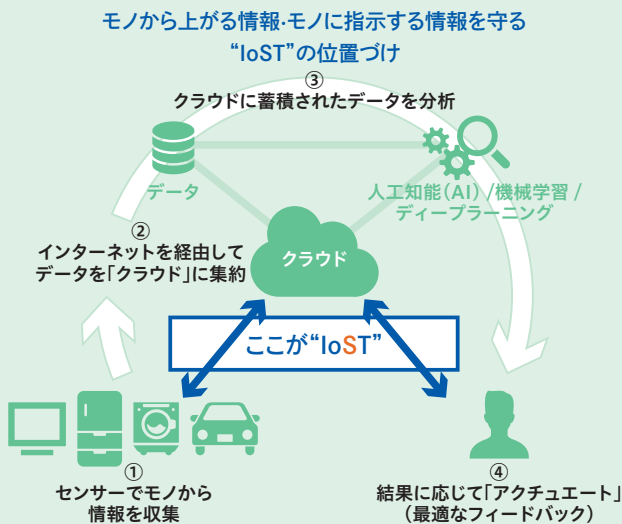
「モノ」がインターネットを通じて情報のやり取りをするIoT(Internet of Things)が、生活者の暮らしを豊かにし、企業の生産性を向上させると大きな期待を集めています。しかし、社会インフラとして安全・安心に利用するためには、IoTにさまざまな脅威を防ぐセキュリティ対策が必要不可欠です。DNPは、創業140年にわたる大切な情報の管理・運用で培った高度なセキュリティ技術を活用し、インターネット上を行き来するモノや人からの「情報」を安全に守ります。

IoST
(Internet of Secure Things®)

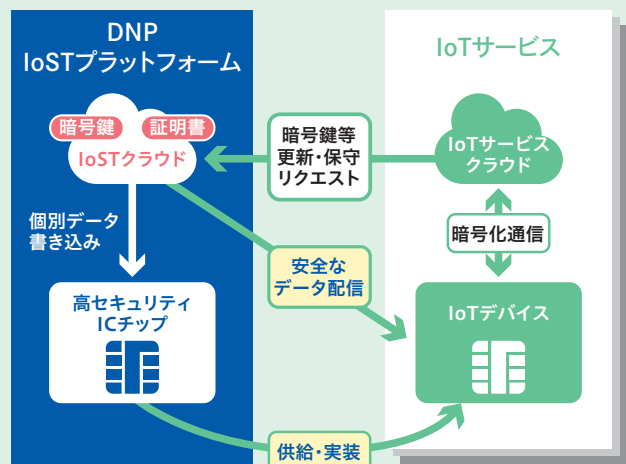
技術の進歩に伴い、機器の監視や制御、利用実態に応じた課金を行うことが可能になるなど、IoTによる社会の変革が進みつつあります。一方で、情報の不正改ざんや機器の複製といった、IoT機器によって生み出された情報に対する攻撃が今後増加していくと懸念されており、セキュリティを高めたいという社会のニーズが高まっています。

さまざまなセキュリティ対策が考えられるなか、DNPはこれまでのICカードビジネスで培ってきた知見や技術をベースに、IoTにS(セキュア)を加えるサービスを提供します。具体的には、キャッシュカード、スマートフォンのSIMカード等で利用されている「ICチップ」をデバイスに組み込み、チップごとの暗号鍵を用いて、インターネットを飛び交う情報の改ざんや機器のなりすまし等を防ぎます。DNPはセキュリティノウハウを活用し、社会がIoTの便利さを感じる「未来のあたりまえ」をつくっていきます。

【特集2】だれもがこころ豊かに暮らせる未来へ
21 未来のあたりまえをつくる。



IoSTプラットフォームとIoTサービスの相関関係



Voice



情報イノベーション事業部 C&Iセンター IoSTプラットフォーム本部
本部長 今井 哲之

IoTデバイスは今後爆発的に増加し、2020年には530億個のデバイスが存在すると「平成27年版情報通信白書(総務省)」に書かれています。DNPはICカードビジネスで培った、ソフトウェア開発、カード開発・製造・発行、ネットワーク発行・認証といった技術力をもとに、IoTデバイスとの“情報”をセキュアに管理し、安全・安心で確かな“情報”コミュニケーションを実現します。そして生活者や社会のさまざまな分野に対して、DNPの強みを活かした新たな価値、サービスを創出し、生活者や社会のあらゆる活動の基盤となることを目指します。